

国際化学肥料ニュース（2023年9月）

肥料業界の2023年9月動態

- * 7月下旬から尿素国際相場の上昇に伴い、硫安価格も上昇した。最大輸出国の中国では8月中旬にカプロラクタム副生硫安のFOB価格が155～165ドル/トンに上がったが、その後がやや下がり、9月第1週ではFOB135～145ドル/トンに落ち着いている。EUの硫安がさらに高騰し、粉品のFOB195～206ドル、粒状品のFOB275～320ドル/トンになった。下記の表は主要地域の8月中旬～下旬の硫安価格（ドル/トン）を示す。

種 類	8月28日～9月3日	8月21日～27日
中国カプロラクタム副生硫安（FOB）	135～145	150～160
中国ブリケット粒状品（FOB）	175～185	175～185
EUカプロラクタム副生硫安粒状品（FOB）	275～320	270～319
EUカプロラクタム副生硫安粉品（FOB）	195～206	172～185
アジアカプロラクタム副生硫安（CFR）	170～180	170～180
ブラジルカプロラクタム副生硫安（CFR）	155～165	170～190
ブラジルブリケット粒状品（CFR）	165～175	175～206

- * インドネシアは国内の尿素需要が旺盛で、メーカーの Pupuk Indonesia 社が国内需給を満たすため、輸出を減らした。GTTのデータによれば、2023年1～6月のインドネシア尿素輸出量が22%減の64.2万トン。主な輸出先はフィリピン（14.52万トン）、オーストラリア（11.62万トン）、ベトナム（8.55万トン）である。
- * インド政府の化学と肥料大臣 Bhagawanth Khuba 氏は Plastic Park 化学団地を視察する際にインドがこの数年間にすでに5ヶ所の新規尿素工場が完成し稼働しているほか、もう1カ所の新規工場が来年に稼働する。これによりインドの尿素生産能力が1270万トン増加し、来年には基本的に自給自足できると述べた。
- * 9月4日、インド RCF 社は新しい尿素国際入札を発表した。9月15日に締め切りと開札、購買数量未定で、11月14日までに船積みという条件である。
- * 9月第2週（4～10日）の国際尿素相場は5週間ぶりに上昇に転じた。特に黒海、中東、北アフリカのFOB価格とブラジル、アメリカのCFR価格が20～90ドル/トンも急激に上がった。尿素相場が上昇に転じた理由は主に4つある。一つ目は9月4日インド RCF 社が新しい尿素国際入札を発表した。二つ目は中国政府が前回インドの尿素国際入札で中国産尿素112万トンも落札したことにより国内尿素の品不足の恐れが引き起こされ、尿素価格が急騰したことに対応して、尿素輸出を厳しく規制する動きがある。三

つ目は EU の天然ガス価格が 1 週間で 11% も急騰して、アンモニアの生産コストが大幅上昇する可能性がある。四つ目は第 4 四半期から南米、インドと EU が尿素の需要期に入り、輸入量が増加するだろうという観測がある。

- * 9 月 7 日、中国政府の 7 部門の共同で「石油化学工業の安定成長に関する指針」という文書を発表した。その中に 2023~2024 年の化学肥料生産量は年間 5500 万トン（N、P₂O₅、K₂O 換算）という要求がある。

- * カナダの Nutrien 社は 2022 年に策定された 2023 年に塩化加里の年間生産量を 1800 万トンに引き上げる計画を無期限に停止することを発表した。その理由は予測された加里肥料の需要増が見られず、経済制裁を受けているベラルーシとロシア産の塩化加里がほかの貿易ルートで輸出されつつ、加里需給関係が供給過剰の状態に陥っていることである。
また、アメリカルイジアナ州の Geismar に進行している 120 万トングリーンアンモニアプロジェクトを中断することも発表した。その理由は当初の見積もりと比較して予想外の建設コストの増加、グリーンアンモニアの販売先と用途の不確実性、その他の投資選択肢の優先順位によるものと説明した。

- * 9 月 15 日、インド RCF 社の尿素国際入札結果が判明した。18 社が応札して、応札数量東海岸 162.515 万トン、西海岸 199.662 万トンの合計 362.1 万トンである。最低応札価格は CFR 東海岸 405 ドル/トン、CFR 西海岸 400.05 ドル/トンで、前回 IPL の尿素国際入札（8 月 9 日開札）に比べて、最低落札価格が 1~9 ドル高くなっている。但し、ほとんどの応札者は CFR430 ドル/トンの入札である。

- * 中国税関の速報によれば、2023 年 8 月の中国化学肥料輸出量が 22.7% 増の 340 万トン。その内訳は尿素が 11.4% 減の 31 万トン、硫安が 16.5% 増の 155 万トン、DAP が 36.5% 減の 33 万トン、MAP が 100% 増の 32 万トン。
8 月の中国化学肥料輸入量が 3.2% 減の 92 万トン。その内訳は塩化加里が 5.2% 増の 81 万トン、NPK 化成肥料が 33.3% 減の 10 万トン

- * 9 月第 3 週（11~17 日）の尿素国際相場は引き続き大幅に上昇した。輸出国ではロシア産とアルジェリア産大粒尿素の FOB 価格が前週より約 50 ドル、輸入国では CFR ブラジル価格が約 25 ドルも上がった。1 ヶ月ぶりに再び 400 ドル/トンを突破した。
価格上昇の主な原因は需要増に対して輸出量の減少である。9 月 4 日にインド RCF 社が新の尿素国際入札を行い、100 万トン以上の購入を目指している。中国政府は国内尿素供給の安定化と価格の統制のため、尿素輸出を厳しく規制し、インドの尿素国際入札

に中国尿素を応札しない可能性が高く、中東や北アフリカの尿素価格高騰を誘発した。また、10～12月は南アジアのモンスーン季節に当たり、インド、パキスタン、バングラデシュの肥料需要がピークに達し、南米諸国も春シーズンで、肥料の需要が旺盛で、バイヤーが積極的に尿素などを買い集めるので、相場を押し上げた。

- * 9月に入ってから中国尿素の輸出規制が強化したため、硫安へのアクセスが大幅に増えたことに加え、オランダのカプロラクタム工場が事故により生産が停止し、硫安供給不安の恐れがあるため、硫安国際相場は大幅に上昇した。

中国硫安について、フィリピンの Atlas 社の 8000 トン入札に FOB160 ドル/トンで落札され、ベトナムの 8000 トン硫安も FOB160 ドルで決めた模様、インド Smartchem 社の 2 万トン入札に 165～170 ドル/の応札である。また、トルコから 2 件計 5 万トンの入札もあり、応札価格が不明である。インドネシアの Pupuk 社も 1 万トンの打診がある。ブラジル向けのブリケット粒状品について、FOB185～190 ドル/トンで 5～6 万トンが販売されたようである。下記の表は主要地域の 9 月上旬～中旬の硫安価格（ドル/トン）を示す。

種 類	9 月 11～17 日	9 月 4～10 日
中国カプロラクタム副生硫安 (FOB)	158～168	150～165
中国ブリケット粒状品 (FOB)	185～190	180～185
EU カプロラクタム副生硫安粒状品 (FOB)	272～341	278～342
EU カプロラクタム副生硫安粉品 (FOB)	192～214	161～192
アジアカプロラクタム副生硫安 (CFR)	185～190	170～180
ブラジルカプロラクタム副生硫安 (CFR)	190～205	205～215
ブラジルブリケット粒状品 (CFR)	210～215	200～225

- * インド RCF 社の尿素国際入札の購買数量が 52.5 万トンにほぼ確定された。多くの応札価格が CFR430 ドルを超えたため、交渉の結果、400～405 ドル/トンの応札数量しか契約されなかった。
- * ベトナム税関の最新統計データによれば、2023 年 8 月のベトナム化学肥料輸入量が 47.2 万トンに達し、2021 年 7 月以来の最高記録である。また、1～8 月の化学肥料輸入量が前年比で 13%増の 250 万トン、その約半分の 120 万トンは中国からの輸入である。
- * ルーマニアの AZO 社は天然ガスの購入契約を締結したことにより、10月からアンモニアの生産が再開されると発表した。AZO 社はルーマニア最大の肥料メーカーで、年間硝安、硝酸石灰 (CAN)、NPK 化成肥料の生産能力 160 万トンを有し、製品の 70～80%を国内に供給する。2022 年の天然ガス価格高騰により、アンモニア生産ラインを一時停止し、それを原料とする化学肥料の生産量が大幅減少した。今回の天然ガス購入

契約により、化学肥料生産能力の50%が回復され、来年には100%稼働できるとの見込みである。

- * 9月第4週（18～24日）の尿素国際相場が2週間ぶりに下落に転じた。その下落幅は20～35ドルである。尿素価格下落の要因は主にインド RCF 社の尿素国際入札に決定された購買量が52.5万トン、予想されていた110万トン超の半分にもなっていないため、中東と北アフリカ、ロシアのメーカーがインドの尿素入札に用意されている大量の製品は在庫となり、捌くには値下げしかない。また、9月に約30万トン中東産尿素が合弁契約によって、FOB380～385ドル/トンの価格でインドに輸入され、インドの尿素不足が一時に解消され、インド RCF 社が購買数量を大幅に減少させた原因にもなった。

大手各社の営業業績

- * アメリカの CF Industries 社は2023年上半期の業績を発表した。アンモニア生産量473.3万トン、尿素生産量233.3万トン、UAN（尿素硝安液肥）326.3万トン、硝安68.8万トン、イギリスの Billingham Complex 工場を永久閉鎖したため、窒素肥料の生産量が若干減少した。肥料販売価格の急激な下落に伴い、売上高が39.5%減の37億8700万ドル、純利益が46.9%減の10億8700万ドル、EBITDAが49.7%減の17億7900万ドル。
- * カナダの Nutrien 社は2023年上半期の業績を発表した。加里肥料販売量が11%減の601.8万トン、窒素肥料（アンモニア、尿素、硝安など）販売量が10%減の294.5万トン、りん酸肥料販売量が16%増の42.6万トン。売上高が20%減の177億6100万ドル、EBITDAが49%減の38億9900万ドル、純利益が79%減の10億2400万ドル。
- * ドイツの K+S 社は2023年上半期の業績を発表した。加里肥料販売量が10.7%減の167万トン、売上高が26%減の20億ユーロ、EBITDAが61%減の4億7800万ユーロ。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * イギリスとオーストラリアの BHP 社はカナダに開発中の Janesen 加里鉱山の第1フェーズプロジェクトの進捗がすでに26%に達し、2026年末に完成・稼働すると発表した。2021～2022年の塩化加里国際価格の急騰により、BHP 社は2023年に Janesen 加里鉱山への投資を55%も増やした。Janesen 加里鉱山は世界最大の加里開発プロジェクトで、第1フェーズの塩化加里生産能力が440万トン、第2フェーズの塩化加里生産能力400万トンと計画している。

- * スウェーデンの Cinis Fertilizer 社は Örnköldsvik と Skellefteå の 2 カ所にマンハイム法を使用する硫酸加里のプラントを建設すると発表した。Örnköldsvik 工場は年間生産能力 10 万トンで、2024 年上半期に完成・稼働し、Skellefteå 工場は年間生産能力 20 万トンで、2025 年半ばに完成・稼働する計画である。原料に使われる塩化加里はドイツの K+S 社から供給されるという。
- * カナダの Sollio Agriculture 社はオンタリオ州 St. Thomas にコーディング緩効性肥料プラントを完成し、稼働し始めた。このプラントは 2021 年に着工、投資額 2500 万カナダドル、年間コーディング肥料 10 万トンを生産する能力があり、製品はカナダ東部全域と米国北東部の農家に販売するという。
- * 中国は 9～10 月に 3 カ所の新規尿素工場が立て続き完成し、稼働する。その新規尿素工場の所在地と生産能力は下記の通りである。安徽昊源化工 40 万トン、河南心連心化工 70 万トン、華魯恒昇荊州 85 万トン。

その他

- * 8 月 30 日、カナダの EverWind 社はカナダ Labrador 州 Burin 半島にグリーンエネルギー開発プロジェクトの権利を獲得したと発表した。そのプロジェクトは Burin 半島に風力発電設備を設置して、その電力で水を電気分解し、グリーンアンモニアを合成するものである。第 1 フェーズは 2025 年に年間 20 万トングリーンアンモニアを生産する計画である。その後は最大 100 万トングリーンアンモニアの生産も視野に入っているという。すでにドイツのエネルギー会社 E.ON および Uniper とグリーンアンモニアの販売契約を結んでいる。
- * ロシア政府は 9 月 1 日から窒素肥料、加里肥料、りん酸肥料と複合肥料にそれぞれ輸出価格の約 7%に相当する 1100 ルーブル/トン、1800 ルーブル/トン、2100 ルーブル/トンの輸出関税を徴収する。
- * 調査会社の Global Data 社は北米地域が 2030 年までに世界のアンモニア生産能力の増加をリードするレポートを発表した。そのレポートによれば、北米地域に 2023～2030 年に完成・稼働予定の新設アンモニアプロジェクトが 18 件、増設プロジェクトが 1 件あり、その生産能力が合計 2,639 万トンに達し、北米のアンモニア生産能力が 2030 年には世界シェアの 37%を占めるという。
- * インドの肥料関係者はロシアのインドに対する化学肥料の割引販売をすでに終了すると漏らした。ロシアによるウクライナ侵攻で、西側から厳しい経済制裁を受け、西側への化学肥料輸出が大幅に減少した。その代わりにインドに割引価格で輸出するようにな

った。2022年下期にDAPの割引額が80ドル/トンになった時期もある。そのため、2022年4月～2023年3月の2022～2023農業年度にインドのロシア産化学肥料輸入量が246%増の435万トンに達した。但し、ロシア国内経済状況が厳しくなった理由で、2023年下期から化学肥料の割引販売を終了し、他国と同様に市場価格で販売する方針に切り替えたという。

* ブラジルのBrazil Potash社はブラジルの先住民がAmazonas州にあるAutazes加里プロジェクトの建設に支持することを発表した。開発予定の加里鉍山は先住民保護区に属しないが、2つの先住民保護区から10km以内に位置しているため、先住民からの同意が必要である。これによって、Autazes加里プロジェクトが認可される見通しとなっている。

* ロシアは2023年10月1日から2024年末までに一部の輸出商品にルーブルの為替レートと連動する弾力的な輸出関税を実施するとロシア政府のHPに掲載された。為替がルーブル安に傾けることにより、輸出関税が増額される仕組みである。それにより化学肥料の輸出関税はルーブルの為替レートによって最大10%に達する可能性がある。